会 議 録

会議の名称	平成29年度第2回川越市環境審議会
開催日時	平成29年11月27日(月) 午後2時00分 開会 ・ 午後3時15分 閉会
開催場所	市庁舎7階7AB会議室
議長(会長) 氏名	福岡義隆
出席者(委員) 氏名(人数) ◎会長 ○副会長	<p>【1号委員】 ・樋口直喜 ・池浜あけみ ・三浦邦彦 ・川口啓介 ・黒田泰江 ○濱口恵子 ◎福岡義隆</p> <p>【2号委員】 ・菊地三生 ・増野秀夫 ・村上直</p> <p>【3号委員】 ・伊藤幾造 ・鎌田政稔 ・鈴木崇弘 ・船津和信 ・宮崎千鶴</p> <p>【4号委員】 ・葛西聡 (16名)</p>
欠席者(委員) 氏名(人数)	<p>【1号委員】 ・海沼秀幸 ・桐野忠 ・小野澤康弘 ・笠原啓一 ・小瀬博之</p> <p>【2号委員】</p> <p>【3号委員】 ・賀登環 ・藤田龍一</p> <p>【4号委員】 (7名)</p>
事務局職員 氏名(職名)	<p>環 境 部 長 : 大野隆</p> <p>環境部副部長 : 福田忠博(環境施設課長)</p> <p>課 長 : 富田稔(環境政策課)、山崎茂(環境対策課)</p> <p>高橋宗人(産業廃棄物指導課)、飯野英一(資源循環推進課)</p> <p>矢島英也(収集管理課)</p> <p>環 境 政 策 課 : 武藤貴子(副課長)、有馬宗弘(副主幹)、橋本光司(副主幹)</p> <p>伊藤雅浩(主任)、山本陽二(主事)</p>
傍聴人(人数)	なし
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 職員紹介</p> <p>3 諮問について</p> <p>4 議題 (1)(仮称)「第三次川越市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>

配布資料

- ・次第
- ・第12期川越市環境審議会委員名簿
- ・資料1 諮問書
- ・資料2 (仮称)「第三次川越市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」
(原案)(パイプファイル)
- ・資料3 概要資料
- ・資料4 計画策定に向けたスケジュール

(参考資料)

- ・地球温暖化対策計画の概要(環境省)
- ・第二次川越市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)
- ・第二次川越市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)年次報告書
(平成27年度)
- ・第二次川越市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の行動指標
及び平成28年度現状値一覧

議事の経過	
発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
司会	<p>これより平成29年度第2回川越市環境審議会を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、23名の委員さんの内、16名の委員さんに御出席いただき、川越市環境審議会規則第3条第2項に基づき、出席者が過半数に達しておりますので、会議が成立しておりますことをここに御報告申し上げます。</p> <p>それでは、はじめに、会長より、ひとこと御挨拶をお願いいたします。</p>
会長	<p>【挨拶】</p>
司会	<p>続きまして、環境部長より、環境部職員の紹介をさせていただきます。</p>
環境部長	<p>【環境部職員紹介】</p>
司会	<p>議事に先立ちまして、申し上げます。当審議会の議事録につきましては、去る5月22日に開催いたしました第1回のもを含め、後日、市公式ホームページにて公開させていただく予定でございますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>続いて、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>【資料確認】</p>
司会	<p>それでは、川越市環境審議会規則第2条第2項の規定に基づき、会長に議長になっていただき議事を進めていただきたいと思います。</p>
会長	<p>只今から議長を務めさせていただきます。皆様の御協力をお願いいたします。</p> <p>次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>まず、次第の「3 諮問について」です。</p> <p>川越市が本年度末の策定を目指している、(仮称)「第三次川越市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」について、去る11月21日(火曜日)、市長から諮問をいただきましたので、ここに報告いたします。</p> <p>諮問書については、事務局が、みなさまのお手元に写しをお配りしていると思います。</p>
事務局	<p>諮問書につきましては、「資料1」としてお配りしておりますので、御確認ください。</p> <p>なお、諮問につきましては、当初、本会議において行う予定でしたが、市長は公務の都合により本日は出席ができないため、事前に、本審議会を代表しまして会長へ、市長から諮問を行ったものでございます。</p>
会長	<p>それでは、次第の「4 議題」に移りたいと思います。</p>

事務局	<p>議題『(1) (仮称)「第三次川越市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」について』事務局よりお願いします。</p> <p>【資料2(原案)の第1章から第4章まで説明】</p>
会長	<p>何か、御質問、御意見などございますでしょうか。</p>
委員	<p>原案54ページ以降の市民アンケート調査について、これは1回だけ実施されたのか、それとも年3回とか4回とか複数回実施されたのでしょうか。35万人市民がいて、その半分が世帯数と考えた場合、このサンプル数は非常に少ないと思います。川越市民として何をすべきなのか、アンケートの中に答えがあるのではないかなと思いますので、できるだけサンプルを取っていただくと、より意義があるのではないのでしょうか。</p> <p>また、恐らく、事業所や企業については、グリーン戦略など、環境に優しい企業が業績も良いということもあるので、市内の事業所などでも温暖化対策を積極的に行っていると思います。そのため、温暖化対策で重要なのは家庭だろうと思います。家庭が相当環境に敏感になって、できることをやっていかないと、多分そんなに削減できないだろうと思います。アンケート調査の結果から、一般家庭の色々なアイデアが出ているのではないかと期待しています。</p> <p>もう一点、伺います。本計画を改定した後、2020年に東京オリンピックが開催されます。また、(2022年に)川越市は市制100周年を迎えます。川越市としては、2年先の2020年、また、市制100周年というのは一つターゲットになるのでしょうか。そのスパンで行政としてどんなことをお考えなのでしょう。もし、特にないのであれば検討いただきたいと思います。</p>
事務局	<p>地球温暖化に関するアンケート調査については、本計画の策定に当たり、市民及び市内事業者の地球温暖化に対する意識や取組状況を把握するために実施しており、現行の第二次計画を含め、平成18年度、23年度の実施に続き、今回は3回目になります。前回の調査結果と比較できるよう、基本的には内容をあまり変えずに実施しております。</p> <p>サンプル数については、少ないという御意見もありますが、(市民アンケート調査については)前回、前々回もサンプル数1,000人で実施してきましたので、今回も前回と同じ1,000人を対象に実施いたしました。また、今回は資料の表にありますとおり、WEBを利用したアンケートも試み、611名の方に御協力いただきました。</p> <p>次に、市民としての取組については、一人ひとりが小さなことから積み上げていくことが、非常に大事であると認識しております。</p> <p>次に、100周年等については、この場では即答できませんが、改めてお示しができればと考えております。</p>

委員	再確認ですが、アンケート調査は今回で3回目ということによろしいですか。また、同じような内容で実施したということによろしいですか。
事務局	市民や市内の事業者を対象としたアンケート調査については、例えば、一昨年の第三次川越市環境基本計画を策定する際、環境に関するアンケート調査を実施しています。今回のような地球温暖化に特化した内容のアンケート調査については、3回目ということになります。
委員	このアンケート調査について、前回との大きな内容の違いは何でしょうか。
事務局	前回との大きな違いとしては、地球温暖化への適応に関する内容として、原案55ページの「地球温暖化の影響において関心がある事象」や、原案58ページの「東日本大震災を経験してのエネルギーに対する意識の変化」を追加しております。
会長	アンケート調査の対象者は、その都度変わるのですか。
事務局	アンケート調査の対象者については、無作為で抽出しておりますので、前回と同じ方が回答されている可能性は否定できませんが、基本的には違う方であると考えています。また、このアンケート調査は無記名での回答をお願いしておりますので、事務局としても、どなたから回答いただいたのかは分かりません。
会長	全体の何分の一でもよいので、同じ方からの回答が得られると、より意識の変化が見られるのではないかと思ったので、聞いてみました。
委員	原案13ページの川越市の地球温暖化対策のところ、文章では年号が和暦で書かれておりますが、下の表では西暦で書かれており、参照しにくいかな、ということが気になりました。 次に、原案24ページの計画の基準年度について、国の基準年度と合わせて、2013年度とするとありますが、基準年度については、どのような設定になっているのでしょうか。 また、計画どおりに削減が進まなかった場合、次の計画を立てる際は、排出量が多い年度を基準年度とすることもあるのか、考え方を教えていただきたいと思えます。
事務局	年号については、分かりやすい表記となるよう検討いたします。 次に、計画の基準年度の設定根拠については、パリ協定を踏まえて策定された、国の「地球温暖化対策計画」において、2013年度を基準としておりますので、それに合わせて2013年度に設定しております。 なお、第二次計画及びその前の「川越市地球温暖化対策地域推進計画」で

	<p>は、基準年度を1990年としていますが、こちらは、京都議定書の目標達成計画に合わせたものです。</p>
委員	<p>第二次計画では1990年が基準年度で、対象物質によっては1995年ということですか。</p>
事務局	<p>一部の物質については1995年が基準年度になります。温室効果ガスの9割を占める二酸化炭素については1990年の値を基準としております。</p>
委員	<p>1990年と今回基準にする2013年度では、値がだいぶ違っていると思います。基準年度が変わることで削減量が違ってくるのかなと思います。</p>
委員会 会長	<p>本日初めて資料を拝見し、第1章から第4章まで駆け足で御説明いただきました。スケジュールを見ると、本日で第1章から第4章までを議論し終えて、次回はもう第5章及び第6章ということですが、今回の審議会で第1章から第4章について意見を吸い上げ切ったことになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>当初の案としては、審議会4回を想定しておりますが、進捗状況に応じて進めてまいりたいと思います。</p>
委員	<p>原案54ページ以降のアンケート調査についてですが、第二次計画策定時のアンケート調査結果と今回の調査結果を比較すると、例えば「地球温暖化についての認知度」では、「よく知っている」が前回61.8%に対し、今回48.5%。次の「地球温暖化についての関心度」についても、前回79.8%に対し、今回58.6%とかなり下がっています。また、「地球温暖化対策に対する取組姿勢」についても、「できる部分があれば取り組む」割合は、前回83.3%に対し今回は70.7%となっています。</p> <p>事業者の「温室効果ガス排出量等の削減目標」についても、「削減目標を設定してない」割合も前回44.6%に対し今回61.7%となっており、かなり後退している印象を受けます。アンケート調査を実施することは大事だと思いますが、結果の分析とかそれに対する対策等は考えられていますか。</p>
事務局	<p>アンケート調査結果の分析、対策等については、例えば、原案57ページの「地球温暖化対策に関連する機器等の購入状況」の設問で、今後どれくらい、どの機器を持ちたいと考えている人がいるかなどを把握し、川崎市が行っている再生可能エネルギー機器設置等に対する補助制度における対象機器の検討などに活用したいと考えております。また、本編には載せていませんが、「省エネ行動などの家庭でできる地球温暖化対策」を問う項目があり、その結果から、どういう行動に対してより強くアプローチをした方がいいのか、また出前講座などで説明するとき、その内容を厚くするなどができると考えています。</p>

	<p>あまり取り組まれていない内容であっても、やり方を知ったり支援を受けることができたりすれば、やってみようという方もいると思っています。そういう部分に対して、どれだけ川越市が行動できるかをあぶり出すためのものとして使っております。</p>
委員	<p>例えば、原案55ページの「地球温暖化に関する認知度・関心度」は、かなり重要なポイントだと思いますが、これが後退していることに対して、その要因や、それを改善するためにどうしなければいけないのか、ということなどは考えられているのでしょうか。</p>
事務局	<p>一因として、今回WEBアンケートの結果も加わっているため、比較的若い世代からの回答が多くなり、結果へ影響しているのではないかなと考えています。</p>
委員	<p>アンケート手法によりバイアスがかかるのはどうなのでしょう。分析について、「かな」はないと思います。分析はやってしかるべきだと思いますし、もしそれが本当にバイアスがかかっているためであれば、それを本編に記載していただかないと、資料だけで第二次計画と第三次計画を見比べたときに、比べて見る方もいると思いますから、誤解のないように記載していただきたいと思います。</p> <p>また、WEBでのアンケート調査について、回収数の611人は一斉送信して返信してくれた方が611人ということですか。</p>
事務局	<p>WEBでのアンケート調査については、回答者数が611人ということです。</p>
委員	<p>そうすると、サンプル数で611人というのは、回収率が100%になるということですか。そうでないならば、このサンプル数というのは、一斉送信した送信件数を書くべきではないですか。</p>
事務局	<p>一斉送信した件数は611件ではありません。WEBでのアンケート調査のサンプル数や回収率については、調査の実施方法等を再確認し、分かりやすく記載したいと思います。</p>
委員	<p>郵送方法による回収率が記載されているので、なおさらWEBの方も郵送と記載を合わせ、サンプル数は送った件数を書いていただき、回収率も記載いただきたい。先ほど申し上げたようにバイアスにも関わると思うので、ぜひ調べていただきたいと思います。アンケート調査を実施することはすごく大事ですが、実施した後どうするかがもっと大事だと思いますので、ぜひ考えていただきたいと思います。</p>
会長	<p>WEBアンケートというのは、コンピューターですぐに回答できるということですか。</p>

事務局	<p>そのとおりです。パソコンやスマートフォンを使って回答できます。</p>
会長	<p>スマホでも回答できるのですか。そういう意味では、WEBアンケートを少しずつ取り入れることで若い人たちの関心が高まる可能性がありますね。いちいち何か書いたりするよりゲーム感覚で答えていくうちに関心がわくなど、期待しています。</p>
委員	<p>原案15ページの「温室効果ガス削減に向けた取組の実施状況」がありますが、これを見ると、随分「未着手」があると思います。第三次計画に向けて、具体的に「未着手」の原因を分析し反映するような形で具体案を盛り込んでいったらどうかと思います。</p>
事務局	<p>現行の第二次計画の計画期間を前倒しにして、第三次計画を策定するという状況もあり、「未着手」が多くなったという面もあります。御意見のとおり、その部分を踏まえて計画を策定してまいりたいと考えております。</p>
委員	<p>原案51ページ以降の、温室効果ガス排出量の将来推計について、原案52ページでは、目標年度における川越市の温室効果ガス排出量が「基準年度から約3.7%増加の見込み」となっていますが、これだと目標を達成できないことになると思います。</p> <p>パリ協定を受けてのことだと思いますが、イギリスやフランスでは、もう電気自動車に切り替えるという方針を、国をあげて打ち出しています。そういうことは、川越市だけでできる話ではありません。国に働きかけるなどして、国にある程度思い切った方針を出してもらわないと、川越市がいくら頑張っても目標は達成できないのではないかと思います。</p> <p>次に、市民アンケート調査について、原案58ページの「市に期待すること」では、「再生可能エネルギーの活用」、「緑を守る・増やす」、「環境に優しい交通施策・自動車利用の抑制」等が高い割合になっています。このようなアンケート調査結果も、ある程度、川越市が向かうべき方向性を示してくれているような気がします。</p> <p>ただ過去の数字だけを頼りにやっても、マイナスしか見込めないならば、それに代わるプラス要素を何か考え出さないといけないのではないかと思います。</p> <p>川越市として、こういったことに力を入れてやります、そうすれば目標を達成できます、という意思表示を、市民も期待していると思いますので、そういった政策をもっと盛り込んでいくとよいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>温室効果ガス排出量の将来推計については、もし、今後も、現状のまま何も新たな地球温暖化対策が講じられなかったとした場合には、2030年度には温室効果ガスの排出量が3.7%増加する見込みということです。そうならないよう、温室効果ガスの排出量をどのように削減していくのか、ということについては、この後の</p>

<p>委員</p>	<p>第5章以降において、市の取組や、重点的プロジェクトとして説明してまいります。</p> <p>原案54ページ以降のアンケート調査についてですが、WEBでのアンケート調査は、回収率という点から見ると、非常によい試みだと思えます。一方で、大切なのは年齢構成を把握して、クロス集計をきっちりしていただくことだと思えます。そうすれば、例えば10年後に同様のアンケート調査を実施した場合に、年代ごとの意見がどのように変わっているのかということが分かると思えます。原案に記載されている調査結果だけですと、ただ回答をまとめて羅列して、数を合わせたというだけのように見えてしまいます。</p> <p>今回の場合は、特にWEBでのアンケート調査を実施したことにより年齢構成が変わるのであれば、今後WEBをもっと増やした方がよい、などとも考えられ、次回以降につながってくると思えます。また、WEBの方が基本的に安上がりだと思えますし、工夫の余地があると感じます。回答者の年齢のデータを取っているのであれば、これを集計するだけですと、きっちり集計をした上で見た方がよいのではないかと思います。</p> <p>次に、これは次回以降の話かもしれませんが、目標については、事業者などの割合が多く、その影響が大きいということを、計画には反映させていくのだと思えますが、今回、説明いただいた部分においても、ある程度きっちり見すえたまとめ方のほうがよいのではないのでしょうか。温室効果ガス排出量の増加については、事業者がどんどんCO2を発生させているから、増加せざるを得ない、というところがあると思えます。市民としては意図せざる場所で動いているのだということも、早いうちから記載していくべきではないかという気がします。</p>
<p>事務局</p>	<p>市民アンケート調査については、回答者の年齢層を集計しておりますので、お示しできるようにしたいと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>市民アンケート調査について、WEBでのアンケート調査の回答者の年齢層が若いから、結果に変化があったのではとのことですが、特定のカテゴリーの方が集中的にお答えになるのであれば、アンケート調査の結果が市民の総意とは少し違う結果なのは当然だと思えます。この結果を市民の総意としてとらえて施策を展開するということになると、実情とはずれる可能性があるということを御注意いただきたいと思えます。</p> <p>また、市民アンケート調査については、市民が本当にどう考えているのか、この結果から読み取れるのか読み取れないのか、もう一度お考えいただければと思えます。</p> <p>次回以降について、もし資料が追加であるのであれば事前にいただきたいと思えます。今回、恐らく皆さんは初めてここで資料を目にされたと思えます。より建設的な議論を望まれるのであれば、事前に配布していただきたいと思えます。合わせて、この計画に関係する部署は環境部だけではないと思えますので、他の部署の方の御出席も、ぜひ考慮していただきたいと思えます。</p>

	<p>また、資料4(計画策定に向けたスケジュール)に記載されている予定以外の審議会の開催も、ぜひ調整をお願いできればと思います。</p>
事務局	<p>資料につきましては、当日の配布になってしまい、大変失礼いたしました。次回以降につきましては、事前に送付できるようにしたいと考えております。また、今後、他の部署も含めた市の施策が展開してまいりますので、他の部署の職員の参加についても検討したいと思います。</p>
会長	<p>他に御意見等ありますか。ないようでしたら、次第の「5 その他」について、事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについて、資料4「計画策定に向けたスケジュール」を御覧ください。次回、第4回審議会につきましては、12月25日(月)の午後2時から、会場は本日と同じく、川越市役所7階7AB会議室を予定していますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、第4回以降の審議会の予定につきましては、裏面に記載していますので御参照ください。先ほど、御意見がありましたように、この予定以外に審議会を開催させていただく場合もありますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、計画の原案につきましては、11月13日(月)から、12月12日(火)までの30日間、パブリックコメントを実施中です。</p>
委員	<p>本日の環境審議会の開催案内ですが、市の公式ホームページでは公開されていなかったと思います。本日傍聴の方もいらっしゃらないのは、そういった理由もあるかなと思いますので、もし、事前に決まっているのであれば、もう少し早く審議会委員以外の市民の方にもお伝えしていただきたいと思います。</p>
委員	<p>パブリックコメントについて、現在、行われている最中ということですが、これは今回の施策についてのコメントをするということになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>本パブリックコメントは、計画の原案に対する意見を求めて実施しているものです。</p>
委員	<p>11月13日には、本日配布された原案が公表されていたということですか。そうすると、私たち委員に渡されるのが、あまりにも遅いのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの都合で申し訳ないのですが、11月13日から開始したパブリック・コメントにおいて原案を公表しておりますが、原案の内容等について、公表後に細かい修正等があったため、委員の皆様へ事前に送付することができませんでした。繰り返しになりますが、資料の配布が当日になってしまい、大変申し訳ありませんでした。</p>

委員	皆さんお忙しい中お集まりなので、次回は有意義な時間を過ごしたいと思います。次回までに、原案の第5章と第6章をしっかりと読んできて、質問等があれば事前に用意しておく、という理解でよろしいですか。
事務局	そのとおりです。
会長	それでは、これもちまして議長の任を解かせていただきます。御協力ありがとうございました。
司会	それでは、閉会のことばを副会長よりお願いいたします。
副会長	以上もちまして、本審議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。